

決算説明資料

2020年度 第2四半期決算

岩崎通信機株式会社

**あらゆる人やモノを繋ぐコミュニケーションで、
生きがい溢れる社会創りに貢献する**

We connect the world,
striving towards building
a society for tomorrow.

◇2020年度 第2四半期実績

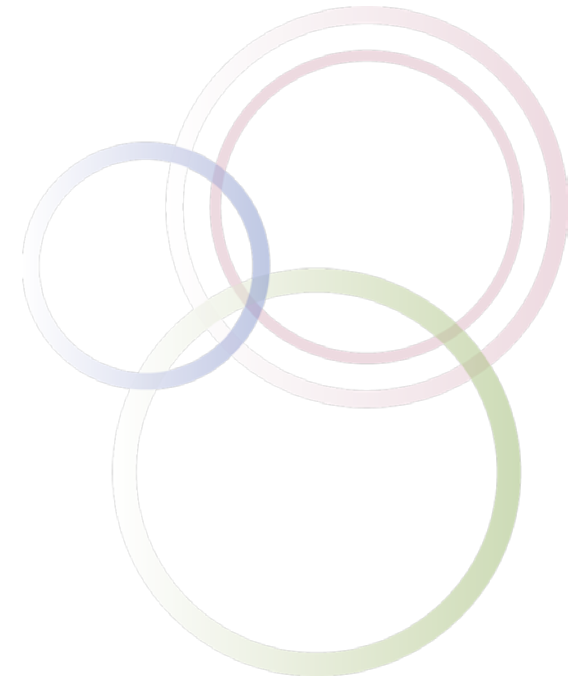
1. 連結業績
2. セグメント別業績
3. 連結貸借対照表
4. 連結キャッシュフロー

◇2020年度 通期業績予想

5. 業績予想
6. 配当予想
7. 投資予想

◇トピックス

8. 当社の新たな取り組みのご紹介



2020年度 第2四半期実績

1-1. 連結業績

(単位：億円)

	前年（19年度） 第2四半期	2020年度 第2四半期	増減
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	100.3	89.7	△10.6
情報通信	71.4	67.8	△3.6
印刷システム	11.7	8.4	△3.2
電子計測	15.5	11.3	△4.1
不動産	1.8	2.1	0.3
営業利益	△3.7	△8.5	△4.8
情報通信	4.0	△0.2	△4.3
印刷システム	0.2	△1.0	△1.2
電子計測	△0.5	△0.8	△0.3
不動産	0.4	0.9	0.5
調整額	△7.9	△7.4	0.5
営業外損益	0.2	0.5	0.3
経常利益	△3.4	△7.9	△4.5
特別損益	△0.2	1.3	1.5
法人税等	0.1	0.1	△0.0
当期利益	△3.8	△6.8	△3.0

1-2. 連結業績

連結売上高の増減

■ 増加 ■ 減少 ■ 合計

(単位: 億円)



2-1. セグメント別業績（情報通信）

（単位：億円）

	前年(19年度) 第2四半期	2020年度 第2四半期	前期比
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	71.4	67.8	△3.6
売上高構成比	(71.2%)	(75.6%)	(4.5%)
セグメント利益	4.0	△0.2	△4.3

- 売上高は、主にビジネスホンやコンタクトセンターソリューションの売上高が減少したことにより、前期比△3.6億円の減収。
- セグメント利益は、受託生産売上の増加、前期の大型案件剥落等、売上高構成の変動による原価率の悪化と、主力製品の後継機の開発による費用の増加により、前期比△4.3億円。



2-2. セグメント別業績（印刷システム）

（単位：億円）

	前年(19年度) 第2四半期	2020年度 第2四半期	前期比
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	11.7	8.4	△3.2
売上高構成比	(10.5%)	(9.4%)	(△1.2%)
セグメント利益	0.2	△1.0	△1.3

- 売上高は、消耗品の売上高が減少したことにより、前期比△3.2億円の減収。
- セグメント利益は、売上高の減少に伴い、前期比△1.3億円。



きりっ子 KIRIKKO Multi Card Slitter
MC-22T Plus



産業用デジタルラベル印刷機
LabelMeister
EM-250W / EM-250A

2-3. セグメント別業績（電子計測）

(単位：億円)

	前年(19年度) 第2四半期	2020年度 第2四半期	前期比
	実績 (連結)	実績 (連結)	
売上高	15.5	11.3	△4.1
売上高構成比	(14.0%)	(12.6%)	(△1.4%)
セグメント利益	△0.5	△0.8	△0.3

- 売上高は、前年同期には航空宇宙関連の大型案件があったことによる反動もあり、前期比△4.1億円の減収。
- セグメント利益は、売上高の減少に伴い、前期比△0.3億円。



© JAXA



VIEWGO II

2-4. セグメント別業績（不動産）

（単位：億円）

	前年(19年度) 第2四半期	2020年度 第2四半期	前期比
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	1.8	2.1	0.3
売上高構成比	(1.7%)	(2.2%)	(0.5%)
セグメント利益	0.4	0.9	0.5

- 売上高は、主に当社敷地内の保有資産の有効活用により、前期比+0.3億円の増収。
- セグメント利益は、売上高の増加に伴い、前期比+0.5億円。

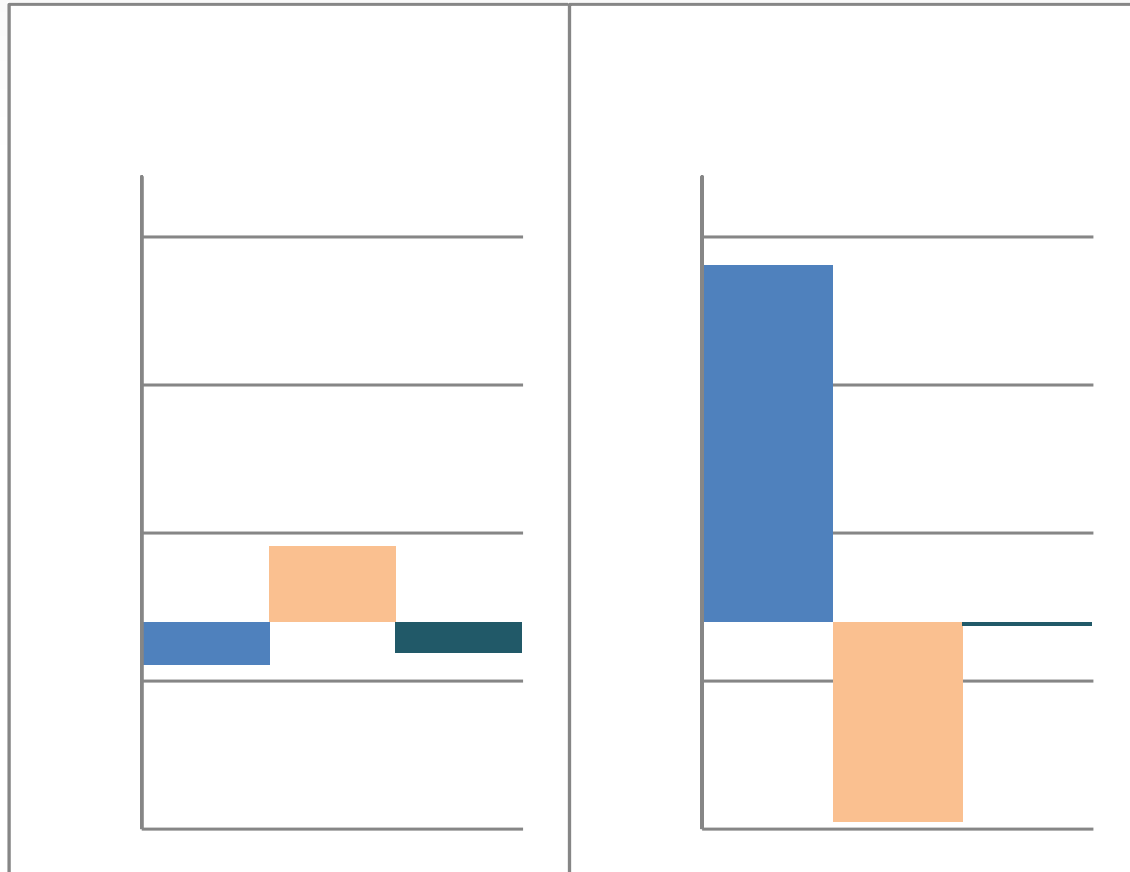
3. 連結貸借対照表

(単位：億円)

	2020年 3月末	2020年 9月末	増減	主な増減要因
流動資産	187.7	176.1	△11.6	・受取手形及び売掛金△24.9、現金及び預金+5.0、商品及び製品+1.7、原材料及び貯蔵品+6.1 等
固定資産	101.8	105.7	4.0	・無形固定資産+3.2、投資その他の資産+1.1 等
資産合計	289.4	281.8	△7.6	
流動負債	37.3	35.9	△1.4	・賞与引当金△0.8、その他△2.0、支払手形及び買掛金+1.6 等
固定負債	57.4	57.5	0.1	・繰延税金負債+0.2 他
負債合計	94.8	93.5	△1.3	
純資産	194.7	188.3	△6.3	・利益剰余金△6.8 他
負債・純資産合計	289.4	281.8	△7.6	

4. 連結キャッシュ・フロー

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF (単位: 億円)



2020年度第2四半期
連結キャッシュ・フロー主な内訳

- **営業CF**
 税金等調整前四半期純損失 (△) △ 6.6
 減価償却費 +3.8
 売上債権の減少額 +24.9
 棚卸資産の増加額 △ 8.8
 その他 △ 1.3

- **投資CF**
 有形固定資産の取得による支出 △ 3.2
 無形固定資産の取得による支出 △ 3.5
 その他 △ 0.0

- **財務CF**
 その他 △ 0.1

2020年度 通期業績予想

5. 業績予想

(単位：億円)

	前年(19年度) 通期	2020年度 通期	増減
	実績(連結)	予想(連結)	
売上高	222.9	219.0	△3.9
営業利益	1.5	△2.0	△3.5
経常利益	2.2	△1.0	△3.2
当期利益	0.6	0.0	△0.6

- **2020年度通期業績予想**

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、売上高は前期比△3.9億円。

営業利益は、受託生産売上の増加、前期受注した情報通信事業における大型案件剥落等、売上高構成の変動による原価率の悪化と、主力製品の後継機の開発による費用の増加により、前期比△3.5億円の見込み。

6. 配当予想

(単位：円)

	前年 (2019年度)	2020年度	増減
	実績	予想	
中間配当	0.0	0.0	-
期末配当	0.0	未定	-
合計	0.0	-	-

●2020年度

- 中間配当は遺憾ながら見送らせていただきます。
- 期末配当予想額は未定とさせていただきます。

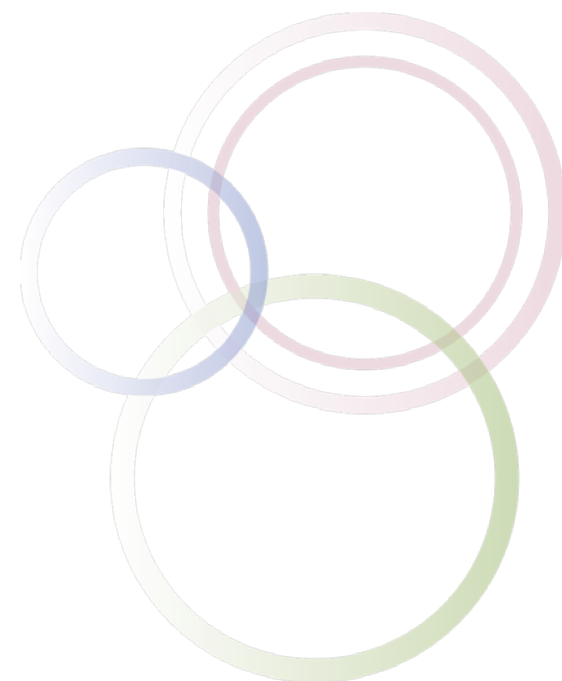
7. 投資予想

(単位：億円)

	2019年度 通期	2020年度 通期	前期比
	実績 (連結)	予想 (連結)	
有形	4.4	8.3	3.9
無形、他	4.7	8.2	3.5
設備投資 合計	9.1	16.5	7.4
研究開発費	17.1	18.7	1.6
減価償却費	7.9	7.9	0.0

- ・設備投資：有形＋3.9億円は、主に本社建物の整備及び生産用設備の取得による。無形、他＋3.5億円は、主力製品の後継機のソフトウェアの計上による。
- ・研究開発費：主力製品の後継機の開発により＋1.6億円。
- ・減価償却費：概ね前期並み。

トピックス



8-1. 当社の新たな取り組みのご紹介

■ 2020年8月31日付

ドイツに計測機器販売の合併会社 「岩通計測ヨーロッパ有限会社」を設立

当社は電子計測事業、特にパワーエレクトロニクス計測の分野において、欧州を最重要市場と位置付けております。

欧州全域における電子計測機器の販売拡大策として、ドイツ国内において販売委託先である現地法人のハイマン・インダストリー社との間で本年8月に合併会社「岩通計測ヨーロッパ有限会社 (IWATSU TEST INSTRUMENTS EUROPE GmbH)」を設立しました。

今後は新設した合併会社を軸に、欧州におけるIWATSUのブランド力を高め、販売網を構築し、パワーエレクトロニクス計測商品の拡販に努めてまいります。



岩通計測ヨーロッパ有限会社
IWATSU TEST INSTRUMENTS EUROPE GmbH
(ドイツ国バッドゾーデン・アム・タウヌス)

8-2. 当社の新たな取り組みのご紹介

■ 2020年9月29日付

メーター自動読取ソフトウェア「計器読む像」 JVCケンウッドとの協業により、エッジAI カメラとの連携ソリューション展開を開始

本協業ではJVC社製のエッジAIカメラ(クラウドやサーバー側ではなくカメラ内部でAI処理を行うカメラ)に当社にて開発したソフトウェア「計器読む像」を搭載することで、工場やプラント内において、狭い場所にも少額の投資で、生産ラインを止めることなく設置できる、FA(ファクトリー・オートメーション)向けソリューションとして展開します。

○計器読む像とは

当社において開発・実証実験中のソフトウェアで、カメラが写したメーターの画像から自動で数値を読み取り、出力・記録することができます。

工場等においてこれまで人が目視確認で行っていた各種メーター数値のチェックや記録を自動化することで、人手不足や読み取り・記録のミスといった課題の解決に役立ちます。

2020年(令和2年)10月14日(水曜日) 電波新聞

メーター読取ソフト開発 JVCケンウッド製の エッジAIカメラと連携

岩崎通信機は、メーター自動読み取りソフトウェア「計器読む像」を開発し、JVCケンウッドのエッジAIカメラと連携させたソリューションを提供する。FA向けで、年々メーターの目視確認が工場の課題解決のために増加している。工場内のメーター(人工知能)処理を行う。アナログメーター(上)やデジタルメーターの数値を読み取り、専用のビューアでログ出力する。監視や電力使用量を手動で「デマンド計」の監視での実証実験(右)を行う。協業では、オープンソースハードウェアのラズベリーパイを採用したエッジAIカメラに計器読む像を搭載、カメラで撮影したアナログメーターの画像を数値化し、ロクやデジタルのメーター画像を数値化し、視覚やユーザから、サーバーへ送信する。計器読む像との連携で、工場やプラント設備の保守点検や自動検査の省力化や手動検査の省力化を実現する。計器読む像の連携により、工場やプラントの保守点検や自動検査の省力化や手動検査の省力化を実現する。

日時	Analog-1
2020/10/08 09:25:23	4.31
2020/10/08 09:25:25	3.04
2020/10/08 09:25:26	1.82
2020/10/08 09:25:29	0.29
2020/10/08 09:25:29	1.33
2020/10/08 09:25:31	2.73
2020/10/08 09:25:32	4.23
2020/10/08 09:25:34	4.84
2020/10/08 09:25:36	4.71
2020/10/08 09:25:36	4.88

日時	Digital-1
2020/10/08 09:25:08	54.1
2020/10/08 09:25:08	19.2
2020/10/08 09:25:10	26.1
2020/10/08 09:25:11	48.6
2020/10/08 09:25:13	50.4
2020/10/08 09:25:15	50.4
2020/10/08 09:25:16	50.3
2020/10/08 09:25:18	50.3
2020/10/08 09:25:19	50.4
2020/10/08 09:25:21	50.5

2020年10月14日付 電波新聞記事